

ふじさわ子育て支援連絡会

H24.11.20 第5回交流会 10:00~12:00

参加者：13名（12団体）+乳幼児1名



～交流会議事録～

■前半：団体発表 10:00～

※前半は、連絡会会員の2団体に活動発表をお願いしました。発表順に掲載。

※発表団体からいただいた原稿をそのまま掲載しています。

【藤沢市石けん推進協議会 手塚さん】

この名称通りせっけんを使いましょうと31年間活動しつづけてきた団体です。活動の内容についてはお渡ししたせっけん推進だよりや資料等でご理解いただけたと思いますので後ほどお読み下さい。10分しかありませんので、私たち協議会の歴史を聞いていただきたいと思います。今からざっと40年前1970年代、海や湖に赤潮やアオコの発生で魚類被害や水の汚れ、主婦しっしんの増加など社会問題が湧き上がりました。原因は色々あるがどうも合成洗剤が悪いのでは、と学者や草の根の活動家が声をあげてきました。そして皆さんご存知と思いますが、滋賀県で有リン合成洗剤を規制する条例が制定されました。藤沢市でも洗剤プロジェクトができて洗剤についての対策が考えられていました。せっけんを使う暮らしを考える市民が集い合成洗剤の追放に関わる条例を求め直接請求の署名活動を起こしました。住所・氏名・年齢・捺印までの効力のある署名です。法定必要数の七倍25000余名の署名が提出されましたが、議会で時期早尚ということで否決されました。しかし「疑わしきは使用せずの立場にたち市と市民が一体となって洗剤問題に関わっていくべき」という市長の意見書・市議会の決議文が出され、又直接請求実行委員会も「学識経験者ではなく実際に洗剤に係る人・一般市民・直接請求実行委員をメンバーにしての協議会を」と市長に要望書を提出しました。そして1981年5月に発足した藤沢市洗剤対策協議会がこのせっけん推進協議会のスタートでした。市より100万円の委託金が付き行政と共にの活動は全国的にみても画期的なことでした。年々減額になりましたけど委託金が補助金になり、洗剤対策が石けん推進になり、市と市民が共に健康と環境を守る活動を続けてこられたのはすごいことだと思います。市の財政困難や合成洗剤業界の圧力もあり、2009年度をもって補助金は打ち切り、事務局も行政から団体に移行しましたので、私たちは新たに要綱を作り2010年4月より藤沢市せっけん推進協議会とひらがなに改称し自主運営の市民団体として再出発しました。ゼロからのスタートですが目的活動はもちろんそのまませっけん一筋です。活動費は会員の年会費、それだけではとても本来の活動は出来ません。そこで賛助会員・賛助団体を求め、うれしい寄付もつけつけています。藤沢市も補助金の打ち切りはあったものの学校給食を全面的にせっけん使用で子どもたちの健康を守る市で、せっけん推進の活動に有形無形の協力を約束しています。これからもさらに工夫して張り切って活動を続けます。どうぞよろしく。

【無料子育て情報誌「ばんびーの」 橋本さん】

「リビング湘南」というフリーペーパーを発行している湘南リビング新聞社では行政協働企画部で、子育て向けフリーマガジン「湘南ばんびーの」を発行しています。先ほどの藤沢市石けん推進協議会の会報（せっけん推進だより 41号）にもあった産婦人科医・池川明さんの話を受け、偶然ですが、湘南ばんびーの3号で同じく池川医師に取材し「胎内記憶」の特集記事を載せたところ大変好評でした。読者アンケートも取り、胎内記憶を聞きました（3号の6ページ具体的な読者の答えを若干紹介）。

0号では、胎内記憶につながる「誕生学」を特集。生まれてくるまでの道のりを「命の道」や「命の部屋」などの言葉を使い説明。1/2成人式なども紹介しています。

この2つに共通していえるのは、これをきっかけにして親子間のコミュニケーションをとってほしい。ほかの人の命の大切さに気付いて命を大切にしてほしいという思いです。

そのほか、1号では茅ヶ崎市から始まり、広域に広がった「怒鳴らない子育て CSP」を紹介したり、2号では絵本の読み聞かせを特集しました。

編集方針で大事にしたいのは、今、子育て中のママの心に寄り添えるような冊子を作りたいということ。共感を大事に、上から目線にならないようテーマを考えています。編集部はみな女性スタッフで子育て経験者です。

次号は来年1月発行予定です。

【質疑応答】

Q 広告と記事のバランスは？ 広告の載せる基準はありますか？例えば早期英才教育などの広告はどのように考えていますか？

A 子育て中の一家が読むにふさわしい内容であるかどうかを基準にリビング新聞の広告基準を参考に掲載判断しています。中には申し出があった広告も内容次第では断ることもあります。広告集めには苦戦しています。ぜひみなさんの力でばんびーの知名度を上げてもらえたらうれしいです。早期英才教育などは（具体的に紙面事例を紹介）PR など広告とわかるようはっきり明示して掲載しています。

Q 配布はどのようにしていますか？

A 3万部、藤沢を主体に、茅ヶ崎、鎌倉に配布。店舗のラック置き、リビング新聞と同配布、保育園、行政子育て関連施設に配布のほか、リビング新聞で募った、希望者へ直接郵送（現状300人ほど登録）また小児科には閲覧用に置いてもらうなども。設置配布の部数は3部（主に閲覧用）ぐらいから。設置先との相談で置く部数を決めています。

【その他】

- 平日のママランチを行っている飲食店などにも置いてもらえばどうか？
- 読者参加型のランチ交流会などは企画してはどうかなどの意見も
- フェイスブックを立ち上げては？なども

障害児や障害者の親なども記事に取りあげてもらいたい。広がるのでは？（「からふる♡ふれんど」という意見も。→編集会議などで検討します。

※「ばんびーの」だけでなく、リビング湘南の紙面でご協力させていただくこともあると思います、まず「からふる♡ふれんど」さんからの声を紙面編集長に伝えてあります。

★子育てサークル、子育て支援団体の皆様へ

ご連絡いただければ「湘南ばんびーの」をお届けします。お気軽にお問い合わせを。

【連絡先】

湘南リビング新聞社「湘南ばんびーの」編集部
・0466-27-7411 FAX:0466-27-7410
メール:bambino@shonanliving.co.jp
月～金 午前10時～午後5時/日・祝休

■後半：グループ交流 11:00～

テーマ「メッセについて話そう」

★11/13(火)は「第10回 子育て応援メッセ in ふじさわ」でした。

メッセ実行委員、当日ボランティア、メッセ参加団体等、メッセにはいろいろな立場で多くの方が、かかわっています。多様な立場からメッセについて意見交換しましょう！

※後半は、2グループに分かれて意見交換、交流を行いました。

※2人以上で来られている団体の方は、各グループに分かれていただいています。

★A グループ

『メッセについて』

- 天候に恵まれて、来場者が多かった。
- 今年の冊子で、新しく参加した団体には QR コードをつけて紹介しているところが多くなった。

お母さんたちが手軽に見られるようになった。

• 冊子には団体運営側で毎年同じ原稿を送っていて、読み手を意識していない情報の載せ方もあった。

しかし、以前にメッセで情報載せて殺到して対応にこまったというケースもあり、あえて円滑な活動のために載せない&最低限の情報のみにとどめる、という団体もある。

・企業協賛で『光友会』さんをお願いしてお互いがよかった。カフェでクッキーを手渡しできた。活動をもっとみなさんに知ってもらおうべきだし、あそこのクッキーは意外においしい。光友会さんからも感謝の意をいただいた。

・来場者人数が例年より多くて、会場が狭さを感じてくくらい“メッセ”が大きくなったことを実感した。しかし、本来は『孤独なお母さんとその子供を支援するための、子育て支援団体との交流をはかるイベント・会』という思いが10年前の出発点なので、そこを忘れてほしくない。大きくなってくるとボランティア精神でやっていくことが大変。

・（→前発言を受けて）メッセが各地域で行われていくと、藤沢で大きいイベントをしなくても、つなげられるのかなあ。

・『気にかかる母』がいたらスタッフが声をかけるような心がけをメッセ実行委員も参加団体も全体としてもつ。

・抱っこしましょうか？といっても、助けを必要としてない自立したお母さんがおおかった。

・市民会館近くのヨーカドーさんとコラボをお願いして、昼食時には屋上のスペースを開放してくれるとか、どうだろう。カフェ（＝ほっとカフェ/メッセ会場内の休憩所）も人が座れないくらい混雑していた。

・空調が古い建物のため、全館統一されていて、暑かった。

・会場外（建物外）の案内役が必要。イベントそのものを知らなかったり、つるのたけしさんの往復ハガキを持っている人のみ入れるイベントだと勘違いしていたり、ホール前の出入り口でサンドイッチマンみたいな案内版をもって立っている人がいるだけでも、外にいる人を会場内へ誘い込むことができたのではないかな？

それかイベント部会で実行委員だけか外に出てイベントの告知をするなど。

★Bグループ

- ・スーツの男性が多かった。
- ・年々、乳幼児連れの男性参加者が増えているのを実感する。
- ・自分たちの会のスタッフにシニア男性がいて、メッセのブースに来てくれている。サンタクロースのコスプレをしていたら、メッセに来た子供たちも喜ぶのでは？
- ・来場者がたくさんいたが、抱っこサポーターがあまりいなかった？または、足りなかったように思う。
- ・（メッセには）男性目線も必要だと感じる。
- ・男性がいかに育児に関わるか、これが主な「テーマ」として（メッセ実行委員会に）参加。男性目線からの育児を発信することが課題と感じる。
- ・ひたすらボランティアでの開催の大変さ。
- ・今年是一般参加の形でメッセを見学した。来年は自分の団体でも参加したい。
- ・映像があってわかりやすかった（※今年のメッセは、NPO 法人「湘南市民メディアネットワーク」による子育て団体の紹介映像があった）
- ・（来場者の）母乳育児相談のためにブース参加している。
- ・数回実行委員を経験している。個人的にもメッセの行方を見つづけたい。
- ・男性の声はアナウンスが通りやすい。
- ・育児相談を受けている最中に演奏の音が流れるのはちょっと困った。
- ・たくさんチラシを受け取って、来場者は持ちにくそうだった。来場者に袋が渡っていなかった？
- ・チラシ入れの袋を受付で配っているが、受付を通らない方もいる。チラシがこんなにたまると思わず、最初に袋を断る人もいた。
- ・（毎年メッセにブース参加している）メッセに参加する意義は、障がいを知ってもらうため。障がい児・者への理解を深めてもらいたいから。（「からふるふれんど」）
- ・市内各地区でメッセが実施されるようになってきた、現在のメッセ会場場所が手狭になってきている。
- ・子育ては、ベビーカーで行ける範囲。13地区でメッセが開かれて身近になるといい。
- ・今年はすごい人出だった。自分のポジションから身動きが取れず、館内を回れなかった。

<補足>

★藤沢市の子育て応援メッセについて★

- ・ 2003年1月、第1回目となる「子育て応援メッセ in ふじさわ」が、ゆめこびとⅡ主催により開催されました。その後、メッセ実行委員会&藤沢市の主催となり、今年、10回目の歴史を刻みました。藤沢のメッセは「世田谷子育てメッセ」と並び、日本で最も歴史のある地域子育て支援の祭典です。
 - ・ 実行委員会と市の主催であるメッセのほか、現在は藤沢市13地区中、村岡・善行・長後・湘南台の4ヶ所でも各地域の特性を生かした地区メッセが開催されています。
 - ・ これまでメッセ実行委員は女性のみでしたが、10回目の今年、初めて男性実行委員の参加がありました！
-

■交流会終了後の感想・意見

※ それぞれ、紙に書いていただいたり、後日メールで感想をいただきました。
ありがとうございました。

- ・ 交流会として意見交換が活発で楽しいと思いました。多くの団体がこのように交流していけることは、とてもよいと思うので、細々ですが自分たちもつながれるようにしたいと思います。
- ・ 湘南リビング新聞社が「湘南ばんびーの」（子育て情報誌）を発行していることを初めて知りました。藤沢の子育て情報を知り、活動に生かしていきたいと思いました。
- ・ 本来のメッセの目的を各地に拡げ、きめ細やかな対応をひとつひとつの場所でできるといいと思いました。
- ・ 「ばんびーの」さんについては、地域情報に対する想いや編集スタッフ自身が子育て当事者、経験者という「子育て目線」もとても納得のゆくものでした。

◆出欠票にあった意見等◆

- ・ 昨日の子育て応援メッセでは交流会でお会いした方に会えたので、又、時間を作って交流会に参加したいと思います。
- ・ いつもありがとうございます。

